

津島分校人権だより

津島分校人権委員会

ひゅーまんらいつ

令和3年第6号



こどもの人権について考える

『わたし8歳、カカオ畑で働き続けて。』より (著:岩附由香他、合同出版)

インドのパンジャブ州に住むソニアちゃんは、5歳から11歳まで、家でサッカーボールを縫う仕事をしていました。病気のお母さんの看病のために、お父さんは働けないので、ソニアちゃんが5歳の時から働いて一家の家計を支えていました。5歳のソニアちゃんは毎朝7時までは家の仕事をして、その後夕方5時半までボールを縫う仕事をしていました。ボールを一つ縫ってもらえるお金は5ルピー、日本円でおおよそ15円です。一日にボールを3つ縫えばよい方でした。サッカーボールの革はとても固いので、縫うには力がいらいます。家の中は昼間でも暗く、とても目が疲れました。

縫い方が弱かったり縫い目がずれたりするとお金がもらえないこともあるので、気をゆるめることはできません。針で手を刺してしまうこともよくありました。ずっと同じ姿勢で座ったまま何時間も縫い続けていると、おなかが痛くなることもありました。ほんとうは学校へ行って勉強をしたいと思いましたが、お父さんに「学校に行かせてほしい」とは言えませんでした。ソニアちゃんは7歳のとき、原因はわかりませんが、急に目が見えなくなってしまいました。目が見えなくなってからも、親戚の人に手伝ってもらって、手探りでボールを縫いつづけたといいます。幸いなことに、学校に行けずに働いている子どもを見つけて救出する活動をおこなうNGOのスタッフによって、ソニアちゃんは11歳のとき助け出されました。

2001年5月、15歳のときソニアちゃんは日本で「ワールドカップキャンペーン 2002 世界から移動労働をキックアウト！」の啓発キャンペーンで自分の体験を語り、子どもがつくったボールをワールドカップの試合で使わないように力強く訴えました。今現在ソニアちゃんは、明るく、笑顔がすてきな女性になっています。もし、ソニアちゃんが11歳の時に助け出されていなければどうなっていたのでしょうか。

さて、国際市場からの輸入品に頼って生活している私たちは、知らず知らずのうちに子どもたちが働いてつくったものを買っている可能性があります。その品物を選んだり、買ったりすることで児童労働が行われる仕組みに加担しているといってもよいでしょう。このように考えると、私たちにも重大な責任があります。

2018年国債労働機関(ILO)の報告書によると、児童労働の子どもは世界で1億5000万人と言われています、そのうち7300万人が危険有害労働(売春、ドラッグ、強制労働)に従事させられています。国連のSDGsの目標では、2025年までに児童労働を無くすとしています。この取組は必ず目標を達成しなければなりません。児童労働で子どもたちがつくった製品には、私たち日本の国内で消費されるものもあれば輸出されるものもあります。その製品の製造過程で、児童労働者として実際に子どもたちが関わっているということが報道されたものがいくつもあります。中でも身近なものが、サッカーボールやチョコレートだということも知っておきましょう。

子どもの権利条約 (日本は1994年に批准)

1989年11月20日国連総会において採択された条約。

基本的人権が子どもにも保障されるべきことを国際的に定めている。

この中で子どもの権利は大きく『生きる権利』『育つ権利』『守られる権利』『参加する権利』の4つに分けられている。



チョコレートの原料カカオ

今年度第2回目の人権・同和教育ホームルーム活動が9月16日に実施されました。

各学年人権委員を中心に担任の先生としっかり打ち合わせを行い熱心に活動が行われていました。各ホームルームの皆さんの感想を紹介します。

1年1組 テーマ 私たちと人権問題Ⅱ —障がい者問題を考える—

感想

- パラリンピックについての歴史や、共生社会のためにできることなどを考えてみて、私は障がいについてもっと学んで行動することが大事なことだと思いました。
- 車椅子を利用している、ということを使い訳にせず、1人のアスリートとして頑張っている姿がとてもかっこいいと思いました。



2年1組 テーマ 人権の歴史に学ぶⅡ —「解放令」の発布—

感想

- 平等な判決を出した児惟謙は、素晴らしいと思うが、さらに、差別された人々が差別されたことを、裁判に持ち込む勇気もすごいと思った。
- いろいろな人から学び、忙しくても勉強に励むようなまじめな人になりたいと思った。私は人と考え方が違ったら自分の意見を変えてしまうことが多いのだが、変えずに貫くことも大切だなと思った。



3年1組 テーマ 人権問題を解決するためにⅡ —身元調査をなくそう—

感想

- 今日の授業を通して私は、いち早く被差別部落出身の人たちに対する偏見や差別がなくなればいいなと思った。私は以前、授業で習ったことを親に話し、差別について意見を聞いたことがある。私の親は差別する意識はなかったが、親世代のひとたちには、まだ強く差別意識が根付いていることを知り、私は同じ立場にはならないようにしたいと思った。
- 授業を終えて、私たちが思いもよらないところで差別や人権侵害が起こっている事例がたくさんあることを知った。結婚するのに世間の目は関係ないし、自分たちの世代で終われるように考え方を改めさせるべきだと感じた。



今日の人権デーについてコメントしよう!

() 年 () 組 () 番 氏名 ()